

大阪大学図書館報

Vol.35 No. 3 Jan. 2002 (平成 14 年) 通巻 141 号

目 次

- 真実不虛
- 電子ジャーナルの導入について
- 職員研修会開催
- 平成 13 年度大学図書館職員講習会を受講して
- 電子図書館への招待① JSTOR
- 教官著作寄贈図書
- お知らせ
 - ・ 人文社会系特別図書、高額参考図書の購入について
 - ・ 本館 1 階に電動集密書架設置
- 会議・日誌

真 実 不 虚

北 川 浩

「国破山河在 ……」 唐の詩聖は、虚構に過ぎない国がなくなってしまったあとに姿を見せた、変わることのない真実としての自然の営みに包まれて、沸々として湧いてくる感慨を詩ったに相違ない。‘真実在’、図書館の運営に関わるようになって此の方、今では死語同然になってしまったこの言葉がしきりと脳裏をかすめる。最近、この言葉への想いを強く触発した読書経験を書かせていただく。

ガリレオが力学に関する生涯の仕事の集大成として著した「新科学対話」(岩波文庫 1597-1598 昭和 23) は、今では絶版となっているが、幸いなことに本館に所蔵されているので借り出して読むことができる。歴史的に著名なこの本の読み方はいろいろあろうが、改めて読み直してみると、今日の言葉で言う“科学技術”を、力学理論を基礎としてアリストテレスの呪縛から解き放った巨大な人物の手になる、

第一級の‘技術書’であることに気づく。ガリレオはこの本を、ヴェネチアの機械工場で働く職工 (artisan) に、代々受け継がれた経験と観察に基づく知と技の確かさに目を向けることから書き始めている。他の場所で“自然という書物は数学の言葉で書かれている”と述べると共に、望遠鏡を用いて（裸眼では見えない）木星の衛星を観測することによって‘地球が動いている’ことを見抜いたその人が、‘抽象的に（幾何学的に）考えた機械と具体的な機械の間の違い’を見極めるのに、老職工の経験に基づく指摘を規範とすべしと述べていることはきわめて示唆に富んでいる。‘科学’を基礎とした‘技術’の危うさに気づくこと、時を超えた経験に規範を求める心と呼び覚まし‘心眼’を研ぎすますことこそが大切であるというのである。

数学者リーマンが、ゲッチンゲン大学哲学部の教授就任講演「幾何学の基礎をなす仮説について」において展開した、‘空間を無限小から理解する’という思想は、以後の幾何学の展開を方向付けたばかりか、空間を扱う物理／工学に大きな影響を与えたことで夙に有名である。一般相対性理論（重力場の理論）は、リーマンが示した幾何学の素地の中にアインシュタインの刺激により作り出された結晶であると見るのできるのである。絶対的な枠中で生じる特定の運動の不変性を追求するのではなく、主客を逆転して、不変なる存在が局所的に作り出す計量の全体として空間を把握すること、慣習的な仮構から自由になるためには（私達）個々が実在を捉えることから始めなければならないということにつながる。H.ワイルと訳者である菅原正巳による詳しい注釈付きのこの講演の日本語訳（清水弘文堂、昭和45）が、驚いたことに社会経済研究所図書室に所蔵されており、借り出して読むことができる。（仮の枠に過ぎない）学問分野に縛られずに集められた知の庫のありがたさを見る。

数学者 岡潔の著になる“日本のこころ”と題する素晴らしいエッセイ集がある。講談社文庫として出版されているほど一般向けの本であるが、今では絶版となっている上に、OPACで検索してみると残念なことに本学の図書館には所蔵されていない。この書に接したくなかったのは、昨今、教育・研究の場における独創性に育成・発揚のあり方が、人づくりという傲慢な言葉と共に、そしてまた、ぎらぎらした動物の闘争本能をかき立て、刹那刹那の勝利を評価することの中で語られることに強い違和感を覚えていたからである。

古書店より購入して読んでみると、碩学 岡潔は、驚くほど純粋な生き方をした人物であることがわかる。純粋であることによって、鋭くて激しい動物的な自我本能が抑止されて、自由なこころの働きが大自然に解き放たれ、そこに強靱な意志力が、心の悦びが、そして純粋直感が働き独創的な活動が生まれると考え、それを身を以て実行した人物であることが見て取れる。こんな指摘がなされている。「自然科学は、・・・、自然と同じ性質を持つ、何がしかのものが存在すると仮定しても矛盾しないことをいおうとしているのである。」「・・・自然の存在を、自然科学によって立証することはできない。・・・自然はわかるからあると思うのである。」（人の世）

ここに、自然科学的な把握と自然の実在そのものの間に必然的に無明が入り込む。そして其処此処で発生する我々の存在すらを脅かす技術の破綻の真因は、紛れもなくその無明の結末であると読みとれる。

果てしない欲望追求の中に活路を見出そうとしている今の我が国、その動きを先取りしようと懸命な我が大学の姿は、まさに岡潔が滅びを予感して警鐘をならした様態そのものであるように思われてくる。真実は、そして自然はこころの中にある。こころの中で受け止めている自然は、生まれて此の方、大自然の中で育まれてきた（はずの）真善美なる実在である。岡潔という（古き）よき先達に一喝されて、目を覚ま

させとばかりに般若心経の一節「真実不虛」が胸を射る。

取り立てて紹介するほどでもない古い本をめぐって冗長に文を連ねてきたのは、「真実不虛」「虚でないから真実である」、そして「真実は虚でない」ということの意味を、まわりで喧しく行われている「評価」とそれを踏まえてなされようとしている大学「改革」の中に置いてみたかったからである。せめて知の庫たる図書館を巻き添えにしないで欲しい。図書館の今後を考えるにあたっては、果敢に改革を進めなければならないことと、絶対に変えてはならないことを見極めることから始めなければならない。限られた人的・物的資源の下で利用者の利便性の向上を追究することは前者に属し、これには発展著しい情報技術を最大限活用しなければならないであろう。しかし、情報技術はまだ歴史的

な評価を受けていない道具であるという覚めた認識が重要で、「我々が受け継いできたことどもを次世代に確実に受け渡す」という、図書館が持つべきもう一つの重要な役割を担う主役には、決してしてはならない。所詮、情報空間に作り出されるリアリティは、必ずその時々「価値評価」に基づくスクリーニングが掛けられた虚構である。そこで欠落してしまうものに思いを馳せるとき、「陽の下に新しきことなし」という至言と共に、「現代版焚書」が罷り通ることへの恐れが脳裏をかすめる。

「春望」、仮に国が破れたとき（今まさにそれが現実となろうとしている！）、真実の追求を厳しく考えない大学は、継ぐ人たちには長物であるとして消え去るであろう。望むらくは、そのときに図書館残りて・・・・・・

（きたがわ・ひろし 吹田分館長・工学研究科教授）

電子ジャーナルの導入について

附属図書館情報サービス課

図書館では以下のページから電子ジャーナル関係の情報や各提供者、タイトルへのリンクを提供しています。

<http://www.library.osaka-u.ac.jp/others/zassi-1.htm> （電子ジャーナルのページ）

<http://www.library.osaka-u.ac.jp/others/zassi-t.htm> （タイトル順リストのページ）

また、医学生物系の電子ジャーナルは生命科学図書館ホームページ「外国雑誌一覧」で利用可能な全タイトル（約 1,500 タイトル）にアクセスできます。

<http://www.library.osaka-u.ac.jp/seimei/#jnlsindx>

1996 年以来、大阪大学では電子ジャーナル導入を進めてきました。この間、提供タイトルは冊子体に付随して利用可能な電子ジャーナルを中心に、以下のように増加してきました。

1996年 9月にスタート 当初は約10タイトル
1997年 約30タイトル
1998年 Springer LINKを提供開始 約200タイトル
1999年 Science Directを提供開始 約1300タイトル
2000年 約1500タイトル
2001年 JSTORを提供開始 約2000タイトル

2001年末の時点で、阪大内からアクセス可能な電子ジャーナルの主要出版者・提供者（多数のタイトルを提供しているサイト）は次のようになっています。（トライアルを除く）

American Institute of Physics (AIP) (15タイトル)
American Society of Civil Engineers(ASCE) (29タイトル)
American Society of Mechanical Engineers(ASME) (17タイトル)
Cambridge University Press (約60タイトル)
Carfax (25タイトル)
Elsevier Sciences (約1,200タイトル)
Institute of Physics (IOP) (20タイトル)
JSTOR (約120タイトル)
MIT Press (19タイトル)
Oxford University Press (約160タイトル) NII 電子図書館サービスにより提供
Routledge (21タイトル)
Royal Society of Chemistry (12タイトル)
Springer Verlag (約150タイトル)
Taylor & Francis (約60タイトル)

（全部で約80の出版者の電子ジャーナルを提供中です。）

上記に加えて、2002年からはさらにWiley, Blackwell等有力出版社の電子ジャーナルが加わり、また、世界的に有名な科学雑誌であるNatureとScienceも、学内から自由に閲覧できるようになります。2002年から利用可能になる主な電子ジャーナルは以下のとおりです。

・Wiley

Wiley社の電子情報サイトであるInterscienceから、300タイトルを超える同社の電子ジャーナルがすべて利用できます。

利用するには、下記のページにアクセスし、"JOURNAL FINDDR"をクリックします。

URL : <http://www.interscience.wiley.com/>

・Nature

Natureのオンライン版が、サイトライセンスにより阪大キャンパス内からフリーに利用できます。従来は全文データにアクセスするためにID、パスワードが必要でしたが、不要になりました。

URL : <http://www.nature.com/nature/>

- Science

American Association for the Advancement of Science の発行する Science 誌が、サイトライセンスにより阪大キャンパス内からフリーに利用できます。また、毎日更新されるオンラインマガジン Science Now も利用可能です。

URL : <http://www.sciencemag.org/>

以下の電子ジャーナルは、生命科学分館で医学系の共同購入予算により導入したのですが、全学で利用可能です。

- Blackwell Science

Blackwell Science 社の電子情報サイト Synergy から、同社の電子ジャーナル約 300 タイトルのほとんどが利用できます。

URL : <http://www.blackwell-synergy.com/member/institutions/journallist.asp>

- Cell Press Online

Cell Press 社発行の以下の 6 タイトルの全文データが利用できます。

Cell / Immunity / Molecular Cell / Neuron / Current Biology / Structure

URL : <http://www.cellpress.com>

- ProQuest Health and Medical Complete

医学、医学周辺領域、看護、保健衛生分野の学術雑誌、約 300 タイトルが利用できます。

2002 年 1 月から 3 月まではトライアル、4 月からは正式開始予定です。アクセス先 URL 等は図書館ホームページからご案内します。

なお、電子ジャーナルの利用にあたっては、適正な利用にご注意ください。個人利用の範囲を超えたデータの利用、データの複製や再配布、ソフトウェアを使った自動ダウンロード等は不正行為にあたります。阪大内で一ヶ所でも不正行為があると、大学全体のアクセスが停止される可能性もありますので、ご注意ください。

<http://www.library.osaka-u.ac.jp/others/agreement.htm> (各社利用規程へのリンク集)

附属図書館職員研修会を開催

11 月 27 日 (火)、図書館本館の図書館ホールにおいて、平成 13 年度大阪大学附属図書館職員講習会が、近畿地区国公立大学図書館協議会の講演会を兼ねて開催されました。

この研修会では、大阪大学大学院法学研究科の松井茂記教授、図書館情報大学事務局長の森茜氏という二人の専門家による、現在の図書館をとりまく重要課題に関する講演が行われました。松井教授は「情報公開と図書館」について、森局長は「21 世紀・メディアミックス時代の到来と大学図書館」について、それぞれ豊富な知識と経験に基づいて講演し、本学図書館職員と近畿地区の国公立大学図書館職員、約 70 名が熱心に耳を傾けていました。

平成 13 年度大学図書館職員講習会を受講して

佐 藤 久美子

平成13年11月6日～9日の4日間の日程で、文部科学省共催による平成13年度大学図書館職員講習会が開催された。受講対象者は主に西地区の国公立大学図書館職員で、今回本学より受講の機会を得た私を含め、83名の受講者が本館図書館ホールに集まった。

講習会の日程は、以下のとおりである。

<1日目>

講義（大学図書館の使命／大学図書館の現状と課題／資料保存とデリバリーサービス）

<2日目>

講義（図書館の電子化と電子図書館／オンラインジャーナルの導入と契約）

見学（本館館内）

共同討議（議題：1. インターネットを利用した図書館サービスの可能性について

2. 大学図書館における情報リテラシー教育のあり方について

3. 新しいサービスを導入するための図書館業務の改善について）

<3日目>

講義（海外の大学図書館の事例／情報リテラシー教育の実際／国立情報学研究所の概要と役割／生涯学習社会と大学図書館）

<4日目>

講義（大学図書館における教育支援サービス／大学改革と大学図書館／大学図書館と著作権）

共同討議報告

今回は講義中心の講習会であったが、上述のとおり、その内容は多岐にわたり、充実したものであった。私自身にとって業務上関連の深いオンラインジャーナルについてはもちろんのこと、普段深く接する機会の少ない海外の大学図書館の事例や、大学改革と大学図書館の関連など、興味深いテーマばかりであった。特に1日目、最初の講義での「学生時代の思い出となる図書館に。このことが卒業生の母校意識を引き起こし、法人化後の大学運営に資するものとなる。」という川北稔館長のお話は、これからの「大学の顔」としての図書館像を具体化するための糸口として、大変印象深く心に残っている。

また、10名1班で行った2日目の共同討議では、90分という短い時間ながら、与えられた議題に沿って活発な意見交換がなされた。ここでは討議を通じ、同じ図書館業務に携わる人たちが抱える様々な悩みや問題意識、それに対する積極的な取り組みに直に触れることができ、自分自身の仕事に対する姿勢を見直す意味でもよい刺激となった。最終日の共同討議報告においても、各班の報告に対しさかんに質問が寄せられ、参加者の意識の高さをあらわしていた。

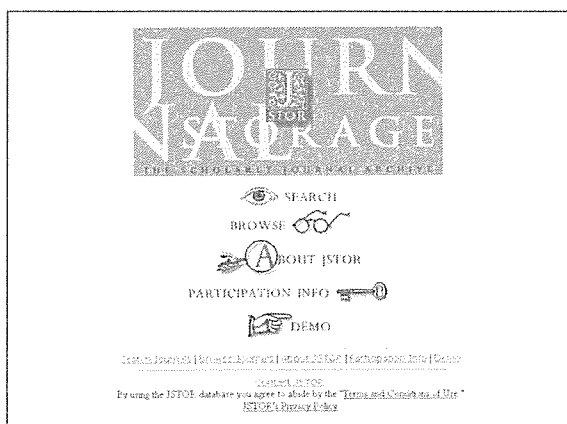
（さとうくみこ 生命科学分館雑誌情報掛）

電子図書館への招待 その1 JSTORについて

今回から、図書館で提供している主要な電情報（電子ジャーナル、データベース等）を紹介していくことにします。

最初は、2001年9月よりサービスを開始したJSTORについてです。

JSTORは、基本的には電子ジャーナルを集めたサービスです。他の電子ジャーナルと違って、JSTORはバックナンバーのみを提供しています。これは、元来JSTORが、後で述べるように、学術雑誌のバックナンバーを電子形態で保存するという構想の産物だからです。JSTORという名称自体が、Journal STORage（雑誌保管庫）に由来しています。



JTOR 初期画面

JSTORは米国 Andrew W. Mellon 財団の会長 William G. Bowen の提唱によりスタートしました。その目的は、増大する学術雑誌バックナンバーの保存スペース、アクセスの確保という世界の大学・研究図書館に共通する問題を、共同で利用できる電子アーカイブを作ることにより解決しようというものです。システムの開発は、メロン財団の出資によりミシガン大学で行われ、1995年、非営利団体としてJSTORが設立されて運用を開始しました。現在、電子化はミシガン大学とプリンストン大学で継続して行われています。

JSTORは非営利団体であるため、当初参加費と比較的低額の年間維持費により利用できます。

2001年末で参加機関数は、米国内857、その他の国が374で、日本で利用している機関は大阪大学を含めて25となっています。

JSTORは現在、大きく五つのコレクションに分かれています。大阪大学で導入しているのは、その中でも基本的なコレクションである Arts & Sciences I Collection です。このコレクションに含まれているバックナンバーは、次の15分野の主要雑誌117タイトルです。JSTORのバックナンバーは原則として初号から収録されています。また、途中でタイトルが変わっている場合は、継続前誌も収録されています。

African American Studies(7) / Anthropology(6) / Asian Studies(5) / Ecology(6) / Economics(13) / Education(4) / Finance(5) / History(15) / Language & Literature(11) / Mathematics(11) / Philosophy(10) / Political Science(9) / Population Studies(8) / Sociology(9) / Statistics(11)

（各分野の後の数字はそれぞれのタイトル数。ただし、2分野で重複しているタイトルがあるため、合計と総タイトル数は違います。継続前誌はタイトル数に含んでいません。）

バックナンバーのみの電子アーカイブという特性のため、JSTORには "Moving Wall" というシステムが取り入れられています。これは、最新版を提供する商業ベースの電子ジャーナルと競合しないため、各出版社との取り決めにより、電子化する範囲を一定期間以前に限定するものです。"Moving Wall" の範囲はタイトルによって異なりますが、通常2年から5年の間に設定されています。例えば、3年に設定されていれば、2001年には初号から1997年以前のバックナンバーがJSTORに収録されています（当該年はカウントしません）。次の年になると、1998年のバックナンバーが追加されます。こうして、常に3年の間隔をおいたバックナンバーが収録されていきます。各タイトルの "Moving

Wall”の範囲は、タイトルリストで参照することができます。

JSTORの利用方法ですが、商業出版社の電子ジャーナルと基本的に同じです。下のURLにアクセスすると、上の初期画面が出てきます。

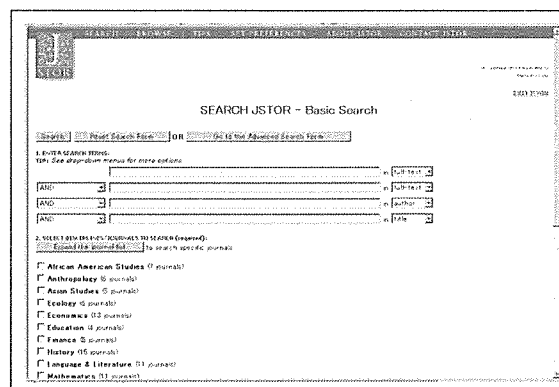
URL : <http://www.jstor.org/>

IPアドレス認証になっていますので、阪大内(ODINS)からアクセスすると、自動的に全文データまで閲覧可能になります。

記事を探し出す方法としては、タイトル、巻号からのブラウズ(初期画面の「BROWSE」)と、キーワードからの検索(初期画面の「SEARCH」)の2種類があります。キーワードの種類としては、タイトル、著者、抄録、全文中に含まれる単語が選択できます。

全文データは1頁ごとに画像ファイルで提供されており、印刷・保存ができます。JSTORの画面では全文データは独自のシステムで表示さ

れており、閲覧にはWebブラウザ以外のソフトは不要です。ただし、全文データを保存する場合はPDF形式に変換されますので、保存したファイルを閲覧するにはAcrobat Readerのような専用ソフトが必要になります。



JSTORの検索画面

JSTORは、平成14年度以降も、大阪大学内からフリーで利用できるサービスが継続される見込みです。

■■■■■ 教官著作寄贈図書 (2001/July.-Dec.) ■■■■■

本 館	
荒井 栄司 (工、教授)	Human friendly mechatronics : selected papers of the International Conference on Machine Automation ICMA2000, September 27-29, 2000, Osaka, Japan / Co- sponsored by Japan society for precision engineering, International federation for theory of machines and mechanisms ; edited by Eiji Arai, Tatsuo Arai and Masaharu Takano. Amsterdam ; Tokyo : Elsevier, c2001
赤澤 堅造 (工、教授)	生体情報工学 / 赤澤堅造著 東京 : 東京電機大学出版局, 2001 (バイオメカニズム・ライブラリー) (生命科学分館にも寄贈)
コリン・マッケンジー (国際公共、教授)	Viewsによる計量経済分析 : 実践的活用法と日本経済の実証分析 / 松浦克己, コリン・マッケンジー著 東京 : 東洋経済新報社, 2001
尹 景徹 (法、教授)	日本新左翼の研究 / 尹景徹著 東京 : 木鐸社, 2001
奥 健夫 (産研、助教授)	ナノ構造解析 / 奥健夫著 名古屋 : 三恵社, 2001
核物理研究センター	PIN 2000 : 14th International Spin Physics Symposium, Osaka, Japan, 16-21 October 2000 / editors, Kichiji Hatanaka ... [et al.] Melville, New York : American Institute of Physics, c2001
平田 健治 (法、教授)	電子取引と法 / 平田健治著 吹田 : 大阪大学出版会, 2001 (大阪大学新世紀セミナー)

菅野 盾樹 (人、教授)	記号主義：哲学の新たな構想 / N.グッドマン, C.Z.エルギン [著]; 菅野盾樹訳 東京：みすず書房, 2001
	表象は感染する：文化への自然主義的アプローチ / ダン・スペルベル [著]; 菅野盾樹訳 東京：新曜社, 2001
池谷 元伺 (理、教授)	Deprem Habercisi Olayar ve Bilimsel Yorumlar / Ulku Ulusoy, Motoji Ikeya Ankara : Kültür Bakanlığı, 2001 (Kültür eserleri dizisi ; 310)
戸澤 英典 (法、講師)	EU諸国 / 小川有美 [ほか] 著 東京：自由国民社, 1999
生命科学分館	
中村 仁信 (医、教授)	画像診断学 / 中村仁信編集 東京：南山堂, 2001 (UPPER放射線医学)
森本 俊文 (歯、教授)	顎関節症入門 / 森本俊文 (ほか) 編著 東京：医歯薬出版, 2001
岡田 正 (医、教授)	系統小児外科学 / 岡田正編著 東京：永井書店, 2001
室岡 義勝 (工、教授)	シーズとニーズ：グリーンケミストリーによる新産業創出 / 日本農芸化学会編：室岡義勝監修 東京：培風館, 2001
井上 俊彦 (医、教授)	放射線治療学 / 井上俊彦編著 東京：南山堂, 2001 (UPPER放射線医学)
微生物病研究所図書室	
本田 武司 (微研、教授)	食中毒の科学：あなたを守る知識ワクチン / 本田武司著 東京：裳華房, 2000 (ポピュラーサイエンス ; 225)
生田 和良 (微研、教授)	したたかなウイルスたち / 生田和良著 東京：裳華房, 2000 (ポピュラーサイエンス ; 224)
蛋白質研究所図書室	
月原 富武 (蛋白研、教授)	タンパク質の姿、形とその働き：構造生物学最前線 / 月原富武, 酒井宏明著 吹田：大阪大学出版会, 2001 (大阪大学新世紀セミナー)

(敬称略、受付順)

■■■■■ お知らせ ■■■■■

●平成13年度人文科学系特別図書、高額参考図書の購入について

10月17日に開催された豊中地区図書選定小委員会において、以下の資料の購入が決定しました。

人文科学系特別図書

1. Rural and Regional Development.

アジア、アフリカ、ラテンアメリカ諸国の農村開発計画資料集

2. Confidential U.S. State Department Central Files : Japan Internal and Foreign Affairs. 米国国立公文書館所蔵米国国務省機密文書：日本の国内事情・対外事情1963-1966年 (マイクロフィルム)

3. The Art Theories of the Italian Renaissance. イタリア・ルネサンス期美術評論集成 (CD-ROM 版)

この他、『日本立法資料全集』、別巻の一部も購入。

高額参考図書

- | | |
|---|---|
| 1. International Encyclopedia of the Social and Behavioral Science.
社会科学・行動科学国際百科事典（オンライン版を含む）
2. Schweizerisches Idiotikon.
スイス方言辞典（スイス・ドイツ語辞典）
3. 工業調査彙報 大正12年～昭和4年
4. Encyclopedia of Life Science. | ライフサイエンス百科事典（オンライン版を含む）
5. Handbook of Statistics.
統計ハンドブック
（本館既蔵分を除く）
6. Encyclopedia of Jainism.
ジャイナ教百科事典
この他、『司法省年報』の一部も購入。 |
|---|---|

●本館1階に電動集密書架設置

昨年新築された本館A棟1階は、書架が設置されてないため、1年以上にわたって利用に供されない状態になっていましたが、このたび予算が認められ、12月より書架設置の工事が始まりました。

新たに書架が設置されるのは、1階東側の部分で、ここに約12万冊収容可能な電動集密書架

が設置されます。なお、西側の部分にも今後書架を設置する予定です。

この書架に収容する資料としては、現在A棟5階に配置しているNational Reporter System、書庫内に仮置している古い参考図書、学位論文、科学研究費報告書等を予定しています。

新しい書架は平成14年4月から利用可能になる見込みです。

■■■■■ 日 誌 ■■■■■

H 13.	10.	4	国立七大学附属図書館部課長会議	(北海道大学)
	10.	5	国立七大学附属図書館協議会	(北海道大学)
	10.	17	豊中地区図書選定小委員会委員会	(本館)
	10.	24～25	国立大学図書館協議会特別委員会	(本館)
			国立大学図書館協議会常務理事会	(本館)
			国立大学図書館協議会理事会	(本館)
	11.	6～9	大学図書館職員講習会	(本館)
	11.	27	大阪大学附属図書館職員研修会	(本館)

訂 正

前号 (Vol.35, No.2) の記事「電子図書館システムの利用について」(p.5)で、生命科学分館の情報コンセント配置場所が間違っており記載されておりました。お詫びして訂正いたします。

× 誤： 情報コンセント：1階～3階北側閲覧室

○ 正： 情報コンセント：2階北側閲覧室

大阪大学図書館報 Vol.35 No.3

発行所 大阪大学附属図書館

通巻 141 号 2002 年 1 月 31 日発行

〒 560-0043 豊中市待兼山町 1 の 4 06(6850)5070

e-mail: sanko-honkan@library.osaka-u.ac.jp